

三十年記念號として

堀 七 藏

今より三十年の昔わが幼児の教育の前身「婦人と子ども」が生まれたものであります。當時フレーベル會が組織せられ、その機關雜誌として「婦人と子ども」が発行せられたものであります。三十年前に於ては我が國幼稚園事業も未だ微々たるものでありましたが、特にフレーベルの名をとつて會の名稱となしたには、當時の會員各位の幼稚園事業に對する意氣の如何に壯なるものがあつたか想像が出來ませう。また「婦人と子ども」といふ所謂婦人雜誌でもなく、また純然たる子ども雜誌でもない、眞に婦人と子どもとの關係、幼児の教育を専門とする機關雜誌を発行せられた精神も亦偉とせねばなりません。當時には婦人雜誌といつても殆どなく、また子どもの雜誌や繪本の如きも實に寥々たるもので、皆無といつても差支ない位な時代に生れた「婦人の子ども」のことでありますから如何にその發育の遅々たるものであつたことでありませう。それにもかゝらず關係者各位が絶大の努力を續けられて今日の盛況を見るに至つたことは吾等後繼者として異常の讃辭を呈せざるを得ないのであります。婦人専門の雜誌が益多くなり子供雜誌が山をなす間に立つてよく當初の信念を保持し専心我が國幼児教育のため貢獻せ

る過去三十年間の業績に對し實に感謝せざるを得ないのであります。而して「婦人と子どもは中途にして改題せられて幼児の教育となつて今日に及んでゐるが、實に我が國唯一の幼稚園教育の研究機關であり、今後亦大に劣力せねばならず、また應分の努力をいたすことと考へますが、讀者諸君に於ても十分わが「幼児の教育」を熱愛せられ本誌が益健全に活動し、我が國幼児教育の進展に貢獻するやう御教導あらんことを希望いたします。茲に三十年記念號を發刊するに當り一言する次第であります。

「幼児の生活」に就て

として、此の寫眞と解説とは東京女子高等師範學校附屬幼稚園の行啓紀念寫眞帖の中のものであります。引つゞき數號に亘り連載しますが、本號の分は先般

皇后陛下 行啓の節台覽を仰いだ實際と同一のもの（場面は此の通りではありません）であります。